教室便り

内藤 博夫

2001年度の教室関係の主な出来事をお知らせします。2001年度に地理学コースを卒業した学生は12名でした。卒論の要旨は本号をご覧ください。かわって2年生には進学振り分けにより9名が地理学コースに進学してきました。皆元気な学生さんなので今後の発展が楽しみです。10月13日には、進学生のガイダンス合宿が八王子大学セミナーハウスで行われました。この時は総合人文科学コースの学生1名も参加しています。自己紹介から始まって話題が広がり、教室の教官と進学生との交流が深まりました。

大学院に目を転じると、地理環境学コースでは6名の学生が博士前期(修士)課程を修了しました。開発・ジェンダー論コースでは地理学教室教官の指導学生2名が修了しました。1月30日の2001年度修士論文最終発表会は学外者にも参加を呼びかけて行われました。修士論文の要旨は本号をご覧ください。2001年度に迎えた博士前期課程新入生は6名です。例年どおり年度内に中間発表会が2回行われ、1年生の研究テーマと進捗状況が次第に明かになってきています。

これまで地理学セミナーという名称で教室関係者の研究発表会が随時開かれてきましたが、これに加えて博士後期課程院生の研究発表会を開こうという機運が高まり、2001年11月28日と2002年2月27日の2回にわたって行われました。2002年度からは前期課程の学生も参加します。

学外への広報活動では、水野助教授の尽力によって教室ホームページを充実しました。また、学内初の試みとして、開発・ジェンダー論コースと地理環境学コースでは、それぞれ大学院生募集ポスターを作成・配布しました。地理環境学コースでは杉谷助教授が作業にあたりました。

教官の動きをみると、熊谷助教授は1年間のパプア・ニューギニアにおけるJICA専門家としての活動を終えて8月に帰国されました。その成果は本誌第42号およびお茶の水地理学会会報第40号に掲載されています。教室職務分担は、コース主任：杉谷助教授、教務：栗原助教授、入試：石塚教授、図書：内田助教授、情報機器：水野助教

授で、前年度と同じでした。大学院前期課程では、地理環境学コース長に2001年度から内藤が、開発・ジェンダー論コース長は石塚教授が就任しました。両コースが属する生活・開発科学系の学系長には田宮教授が就任しました。

附属中学校校長を2期勤めた田宮教授は、2002年度からより重責の附属学校部長に就かれました。文部科学省は国立大学の独立行政法人化や統廃合を打ち出しています。本学もこの激動にどう対応するか、学長を中心に全学的に模索がはじまっています。2002年2月には内田助教授が学長ブレンの一人として、新設の学長補佐に任命されました。多忙ななか、内田助教授には本学の発展のために頑張ってもらいたいものです。

教室関係者の学位取得状況をみると、2001年3月には博士後期課程の森本泉さん、元助手で法政大学助教授の山田志乃布さん、2001年12月には元助手で椋山女学園大学専任講師の影山穂波さんがお茶の水女子大学より博士の学位を与えられました。また2002年6月には杉谷助教授が東京大学より博士の学位を与えられる予定です。森本・山田論文の要旨は本誌第42号、影山・杉谷論文の要旨は本号をご覧ください。2001年4月、森本さんは明治学院大学専任講師に就職されました。大学院人間文化研究科助手を勤めていた石川百合子さんは独立行政法人・産業技術総合研究所研究員に就職され、2001年度日本地理学会奨励賞を授与されました。

巡検の記録 (2001年度)

長期巡検

7月23～27日 「地理学野外調査A」佐渡島羽茂町(栗原・石塚)

7月23～27日 大学院「環境文化論演習」「歴史地理特別演習」両津市、相川町(内田)

短期巡検 (地理学野外調査B, C, D)

5月13日 佐倉・成田(内田)

6月22日 気象研・国土地理院(田宮・内田)

9月22日 関宿(内田)

10月14日 八王子(内藤)
10月20日 横浜(水野)
11月17日 千川上水(田宮;お茶の水地理学会
と合同)

1月4日~6日 高尾山(田宮)
2月17日 横須賀(内田)
2月14日 JICA本部・国際センター・国際協
力総合研修所(熊谷)

公告：卒業論文の返却について

卒業生各位

前号でご案内しましたとおり、地理学教室では卒業論文の保管場所がなくなったため、著者に返却する作業を進めてきました。

宅急便による返却の受付は、すでに終了しました。今後返却を希望される方は、地理学教室までお越しください。遠隔地にお住まいの方は、在京の友人等を代理受取人としてください。

なお、2003年3月末までにお申し出がない方につきましては、恐縮ですが返却を希望されたい

のと判断し、行政文書の保存期間の規定にもとづいて対処いたします。

2002年5月1日

お茶の水女子大学 地理学教室

応対場所・時間帯(2002年9月以降)

文教育学部1号館, 7階710室

月~金, 10:00~17:00

TEL 03-5978-5186 FAX 03-5978-5185

スタッフの活動

内藤博夫：研究活動としては、和田明子先生(中央大学客員研究員)を中心とした郡内研究会に出席し、討議に参加したことがあげられる。この研究会は1984年、1985年と2年間にわたって文部省科学研究費(総合研究)の交付を受けて行われた山梨県郡内地方の研究に端を発して生まれたもので、現在メンバーは私を含めて4名である。年に6回程度の研究会をもち、しばしば合宿を行っている。また必要に応じて現地調査も行っている。その成果は幾つかの論文となって公表されてきたが、当面の目標は単行本にまとめることである。執筆の分担もきまり、予定ではすでに出版されているはずのものであるが、各メンバーの事情もあって伸び伸びになっている。できるだけ早い時期に出版にこぎつけたい。現在(2002年4月)は、5月に開かれる経済地理学会のシンポジウムに研究会として応募したので、その準備に当たっているところである。その他としては、10年ぶりに茨城県鹿島臨海工業地帯の調査に出掛けたことがある。臨海工業地帯の一角を占める鹿嶋市(旧鹿嶋町)の衰退が目についた。原因については今後の研究課題としたい。

学内では生活環境センター運営委員を勤めてい

る。学内の委員会には年2~3回しか開かれないものもあるが、このセンター運営委員会の場合は教授会のあった週の翌週に開かれることになっていて、会議の回数が多い委員会といえるだろう。これはセンター運営委員会が組織上は教授会と同格と位置づけられているからで、3学部教授会の共通議題はセンター運営委員会の議題にもなる。名前のおり、生活環境研究の中心として活動している機関なので、地理学とも関係があるといえる。これからもセンターの発展のために貢献したい。

田宮兵衛：1997年度から4年間続いた附属中学校長の併任が解除されたので、多少研究的活動を行い、2001年春・秋の地理学会、秋の気象学会で、下記2件につき延べ3回発表を行った。

①『ヒートアイランド強度と気温日較差』(山本奈美と連名)：3月27日地理学会口頭発表、10月12日気象学会ポスター発表。

②『「気温日較差」という気候要素について』(半間有希子と連名)：9月30日地理学会口頭発表。

いずれも卒業論文を整理したものであるが、これにより埋もれてしまいかねない科学的知見を残

す作業の一環であり、最終的には論文にする必要がある。しかしながら、このような行為を学生を搾取していると断ずることも可能である。

附属中学校紀要第三十集に校長時代の業務と関連して、「環境教育・理科教育」を発表した。本稿とは直接関連はないが、また環境教育を含め中学校における個々の生徒の特性を可能な範囲で把握した上で進められている教育の実際のごく一部を瞥見したに過ぎないが、少子高齢化社会における大学生の多様化と変容という現実と直面した我々にも附属の教育現場には学ぶべき点が多い。

教育活動においては、大学院博士後期課程の論文指導演習を人文地理系学生と気候学生のために2つに分けて行っている。前者には時々学生以外の発表希望者も受け入れることにしているので、多様な話題に接することができて主宰者も、得るところが多く参加者もかなりの数を維持している。人文地理専門の先生方が本ゼミにニーズが高いことを確認され、地理学セミナーを開催することになったのは、大学院生のためにも御同慶の至りである。

対外的活動としては、内閣府のミレニアム・プロジェクトの一つであるARGO計画の評価助言会議のメンバーとなっている。ミレニアム・プロジェクトは、「人類の直面する課題に答え、新しい産業を生み出す大胆な技術革新に取り組むため」という建前で予算を重点的に配分する仕組である。また、ARGO計画は海面から水深2000mまで海水の温度・塩分の鉛直分布を自動的・定期的に観測する中層フロートの全球的展開(3000個)とそのデータ処理、得られたデータによる海洋大循環モデルの改良を目指している。大袈裟な言い方をすれば、国民が支出した税金額に即した研究者の活動の成果が制限時間内に得られることに協力することが任務であるが、立案また現場には関与していないので不思議な役割でもある。今後は、大学運営も、立案・現場に関与しない評価により命脈が決められることになるので、その意味でも関心を持たざるを得ない。

この他、気象庁の気候問題懇談会温室効果検討部会専門委員として、「気候変動監視レポート」、「オゾン層監視報告」等の閲読を行っている。この作業は専門家が作成する文書の内容が外部に適切に伝達されるか否かがポイントなので、学生の論文指導に共通する点もある。

お茶の水地理学会の活動に関しては、会計委員として、事務局の倉本さんと相談しつつ運営に参加した。2002年度より附属学校部長を併任することになったので、ここ数年間続けていた運営への直接的な関与からは離れることになった。旧地理学科の構成員には主体的かつ全容を把握した参加が必要と思われる。ただし、特定の学会への大会に場を提供するというようなスポット的関与と、自らが属する教育機関の卒業生の組織への継続的関与のどちらを取るかの選択は、選択者の個性を反映することとなろう。(2002.04.27)

石塚道子：研究活動としてはカリブ海地域の文化空間調査と植民地期文書調査をカリブ海島嶼およびフランスで継続している。京都大学人文研究所、本学重点プロジェクト・グローバル化とジェンダー規範研究会における共同研究に参加し、本年度はその成果を「カリブ海地域の植民地主義と文化人類学」、「先駆ける周辺ーカリブ海地域のグローバル化とジェンダー規範の変容研究の視点」としてまとめ、いずれも5月刊行予定である。

教室運営では、この2年来入試委員として入試業務、大学見学会開催などの仕事に携わっているが、重要業務につき「ドジ」を踏んでしまわないように気をいれてやり遂げたいと思っている。そして多くの受験生を獲得できればと願っている。

学内の仕事ではジェンダー研究所の運営に係り、本学が海外にも開かれたジェンダー研究の拠点となるようにと微力を尽くしている。

栗原尚子：研究活動は、竹内啓一(監修)『都市・空間・権力』(大明堂、2001)所収論文「19世紀後半のバルセロナ市における近代的都市空間の創出」の刊行。歴史地理学会第44回大会一般研究発表座長(7月1日)。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科国際日本学シンポジウム「新し日本学の構築Ⅲ」における竹中宏子氏「スペインの都市祝祭にみられる伝統と現在」についてのコメンテーター(7月14日)。日本地理学会研究グループ「地理学の伝統と革新」のオーガナイズ(6月16日)。報告は源氏と葉氏の2名。葉氏は本学地理学科の助手を勤務後、オーストラリア国立大学にて博士号を取得し、その研究成果の一部である「植民地主義・都市空間・ジェンダー」について報告がなされた。同研究グループの活動を充

実させることが、2002年度の目標である。経済地理学会評議員および2002年度大会シンポジウム「日本経済のリストラクチャリングと雇用の地理」実行委員会（ソフト部門）委員。

教育活動は、通常の講義・ゼミのほか、「地理学野外調査A」（7月23日～27日；4泊5日）を佐渡島の羽茂町・赤泊村で行った。おけさ柿生産農家（農業）、観光開発、羽茂・赤泊の漁業、高齢者福祉、教育などの分野について履修者の関心テーマを中心に実態調査を行った。卒業論文指導は、浅沼直子・川邊朱里・山田知子子の3人であった。修士論文は、福島聖子・山口理紗子の2人が提出。

地理教育分野では、高等学校の改訂版教科書『地理A』『地理B』の執筆。

学部内委員は、地理学コースの教務委員。

大学の中期目標策定の一部として、3月半ば過ぎに学部長からの依頼で、卒業生の社会における活躍状況を示す資料の提示が求められ、アンケート調査を実施した。年度末多忙な折り、突然の依頼にも関わらず卒業生の協力を得て、他学科・他コースには見られないような資料を作成することが出来たことを、この場にて感謝とともに報告に代えさせていただく。

熊谷圭知：昨年9月、パプアニューギニアでの1年間のJICA専門家としての活動を終え、帰国しました。この1年間の体験は私にとって大きなものでした。これからも、地域研究者と開発実践者という二つの世界の境界を超え、その間を往還することで、自らの仕事を磨いていければと思っています。

最近の仕事（2000年6月～2002年3月：本誌第41号に掲載したものは除く）は以下の通りです。

1. 書いたもの

「特設レポート・地域研究」人文地理52-3：pp. 283-287. 2000年6月

『都市の誕生—太平洋島嶼国の都市化と社会変動』アジア経済研究所、356p. 塩田光喜と共編. 2000年12月

“Port Moresby: Divided City — My 21 Years in Settlements in Port Moresby.” *Post Courier* (パプアニューギニアの日刊英字新聞) Mar 23, 2001

「JICA専門家としてのポートモレスビーのセトルメント問題への関与の試み」お茶の水地理42：pp.47-68. 2001年6月

「地域研究から開発実践へ」季刊オセアニア2001年5月

「パプアニューギニア都市と犯罪」コミュニティ No. 128: pp. 76-79. 2001年11月

「パプアニューギニアでの一年を終えて」お茶の水地理学会会報40. 2001年11月

「パプアニューギニアに犯罪が多いのはなぜか、または新しい都市文化の創造をめざして」パラダイス（青年海外協力隊パプアニューギニア隊員機関誌）2001年新世纪合併特大号 pp. 67-72. 2001年12月

「面白い地誌のために」地理47-4：pp. 8-16. 2002年4月

2. 口頭報告（学内は除く）

「研究者と実践者の往還の試み—JICA専門家としてのポートモレスビーのセトルメント問題への関与を通じて—」人文科地理学会大会（神戸大）2001年11月12日

「研究者と実践者の往還の試み—JICA専門家としてのポートモレスビーのセトルメント問題への関与を通じて—」国立民族学博物館・地域研究企画交流センター連携研究会「オセアニア島嶼国における国家統合と地域主義」（法政大）2001年12月10日

杉谷 隆：研究活動（指導学生の活動を含む）と教育活動は、次の個人ホームページに公開し、随時更新する体制をとっている。論文には要旨を、単行本には著者解題を付している。

http://isweb19.infoseek.co.jp/school/antennae/lab_index.html

業績報告やホームページのどこにも記載されない裏方仕事としては、2000年度から助手定員削減と同時にコース主任に就き、中台由佳里さんほかに補佐されながら、広範な雑務を含めた教室運営にあたることになった。雑務とは、予算管理、古い図書や機器類の大整理、院生室の拡充、常時大学にいることから生じる学生・事務部・学外への応対という秘書の仕事、その他である。しかし、これらの一部は本学に来てからずっとやってきた仕事であり、主任の責任と権限のもとに一気に進めたにすぎない。「みなが暮らしやすい環境」を作る仕事は、明示的な報酬や評価を受けることなく、今後も続くだろう。2001年度は人文科学科主任を兼務したので、学生ガイダンスや入試な

どの学科業務にも忙しかった。

そのほかの雑務では、本誌の編集を前号から刷新した。面白い記事を地理学の枠にとらわれずに載せる実験誌にしたいので、ふるって投稿してほしい。若手の原稿には徹底して朱を入れ(ただし著者の論旨は尊重する)、図表割付も厳密に行っているのだから、大変な手間がかかるうえに著者もうんざりするだろうが、物書きになるための通過儀礼と考えてがんばってほしい。

これも業績報告には載せにくい地理教育分野では、中学・高校の改訂版教科書の自然地理と環境問題の章を執筆した。また、日本地理学会・地理教育専門委員として検討した内容を、秋季学術大会で報告し、雑誌「地理」に寄稿予定である。学内では学長裁定経費を受けてデジタル・ビデオ装置を導入し、膨大な映像資料のデジタル化に踏み切った。

水野 勲:

[論文]

『輸送ネットワークの地域的不均等発展に関する数理モデル研究』, 平成11・12年度科学研究費補助金(基盤研究C2)研究成果報告書, 研究代表者: 水野勲, 2001年.

『クリスタラーとレッシュの中心地理論』, 松原宏編著『立地論入門』, 古今書院, pp. 27-37, 2002年.

[学会・研究会発表]

「歴史と地理に敏感な立地論, あるいは自己組織化モデル」, 人文地理学会大会特別研究発表, 2001年11月10日, 神戸大. 発表と討論の内容は, 『人文地理』54巻1号, pp. 87-90.

『新しい経済地理学』と『地理学的な立地論』: 地理的モデリングとは何か, 日本地理学会「地理思想の伝統と革新」研究グループ(空間の理論研究会共催)研究会, 2002年4月1日, お茶の水女子大学.

[公開講座]

「地図と統計とウソ」, お茶の水女子大学公開講座, 2001年10月6日.

[非常勤講師]

明治大学にて「経済地理学Ⅰ」「経済地理学Ⅱ」

[学会委員]

日本地理学会庶務委員(2000-2001年度)

内田 忠賢(2000・2001年度):

[社会的活動]

国際日本文化研究センター研究部助教授(併任), 国立歴史民俗博物館共同研究員, 習志野市史(民俗編)調査委員, 日本地理学会選挙管理委員長, 人文地理学会協議員, 歴史地理学会常任委員, 現代風俗研究会編集委員

[著書]

1. 風景の事典 共編著 平成13年 古今書院
2. 風景の図像学(D.コスグロブ, S.ダニエルス著)共監訳 平成13年 地人書房

[論文]

1. 神楽坂の怪異: 妖怪の歴史地理学 平成12年 足利健亮先生追悼論文集編纂委員会(編)『地図と歴史空間』大明堂
2. そぞろに怖ろしくおぼえて: 江戸の怪異空間の諸相 平成12年 小松和彦(編)『記憶する民俗空間』人文書院
3. レジャーランドの物語: 高度経済成長期の船橋ヘルスセンター 平成12年『現代風俗学研究』6号 現代風俗研究会
4. 変化しつづける都市祝祭: 高知よさこい祭り 平成12年 日本生活学会(編)『祝祭の100年』ドメス出版
5. 祭りの「旅」: 「ねぶた」と「よさこい」の遠征・模倣・伝播 共著 平成12年『旅の文化研究所研究報告』9号 旅の文化研究所
6. 民俗世界の地理学 平成13年『地理』46巻4号
7. 東京女子高等師範の地理巡検: 1939年の満州旅行 平成13年『お茶の水地理』42号
8. 地理学から見た風土記 平成13年 植垣節也・橋本雅之(編)『風土記を学ぶ人のために』世界思想社
9. ムラの民俗的空間構成(前編) 平成13年『地理』46巻8号
10. ムラの民俗的空間構成(後編) 平成13年『地理』46巻9号
11. 都市民俗生活誌データベース作成のための基礎研究 平成13年『福武学術文化振興財団平成12年度年報』福武学術文化振興財団
12. 都市の伝統と現代(前編) 平成13年『地理』46巻12号
13. 都市の伝統と現代(後編) 平成14年『地理』47巻1号

- 14.高度経済成長期の船橋ヘルスセンター 平成14年 現代風俗研究会(編)『20世紀の遺跡』河出書房新社
- 15.民俗地理の世界 平成14年『地理』47巻4号[発表]
- 1.利根川流域都市の盛り場と生活誌 国立歴史民俗博物館共同研究会(歴博)平成12年6月
- 2.1939年の満州巡検:東京女高師『大陸視察旅行雑感集・昭和十四年』から 学芸地理学会講演会(東京学芸大)平成12年6月
- 3.大衆文化のとらえ方 国際日本学シンポジウム(お茶の水女子大)平成12年7月
- 4.変化しつづける都市祝祭 日本生活学会シンポジウム(滋賀県立大)平成12年10月
- 5.江戸の怪異空間 江戸学講座(港区立歴史資料館)平成13年3月
- 6.都市民俗生活誌の可能性 現代伝承論研究会(国学院大)平成13年4月
- 7.都市祝祭の伝統と現在 国際日本学シンポジウム(お茶の水女子大)平成13年7月
- 8.東京女高師の満州旅行 日本地理学会秋季大会(秋田大)平成13年9月
- 9.都市民俗生活誌の可能性 日本民俗学会年会(帝塚山大)平成13年10月